

# 4年 道徳学習指導案

4年1組 23名 指導者 山本 雅子

## 1 総合主題名 ともに生きる

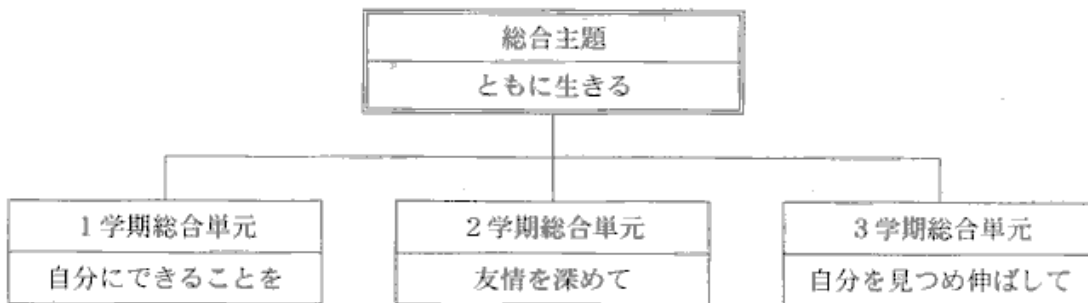
## 2 総合主題について

4年生の児童は明るく素直で、何事にも前向きに取り組むことができる。学校や学級のきまりを守ろうと心がけ、今年からかかわることになった委員会活動や清掃活動にも真面目に取り組んでいる。また、特別支援学級のN子にさりげなくやさしい心遣いをすることもできる。

しかし、言われた仕事だけをやっているだけでよしとするような傾向が見受けられ、全体のことを考えて自主的に取り組もうとする姿勢はあまり見られない。友達関係においても、休み時間一人で過ごしている友達に対する働きかけがあまりなされず、学級の中で孤立しがちになっている児童が数名いる。また、友達に対する一方的、固定的な見方から、配慮に欠けた言動で友達の心を傷つけてしまう出来事も何度かあった。

人間は誰しも一人では生きていけない。集団の中で互いに認め合い、ともに支え合い、助け合うことによって心が安定し、楽しい生活をおくることができる。そのすばらしさを上学年の仲間入りをした4年生のこの時期にぜひ感じさせたい。そして、みんなが楽しく過ごすためにはどうするべきかということいろいろな人の立場にたって考えたり、現状をよりよくしていこうと進んで行動したりできる子に育ててほしいと願い、総合主題「ともに生きる」を設定した。

総合主題「ともに生きる」の単元構想は次の図のとおりである。



## 3 2 学期総合単元名 友情を深めて

## 4 総合単元について

### (1) 単元設定の理由

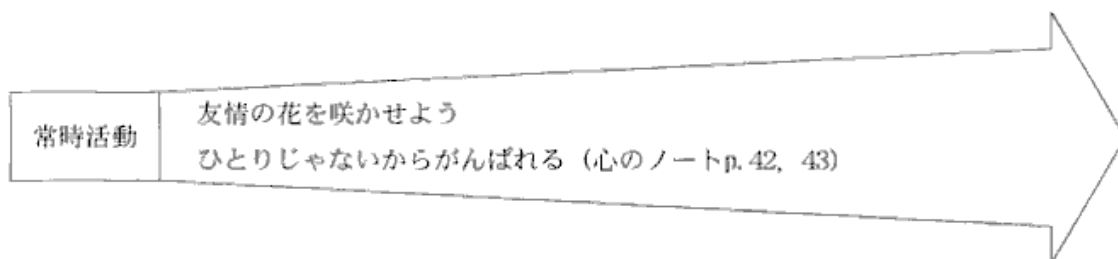
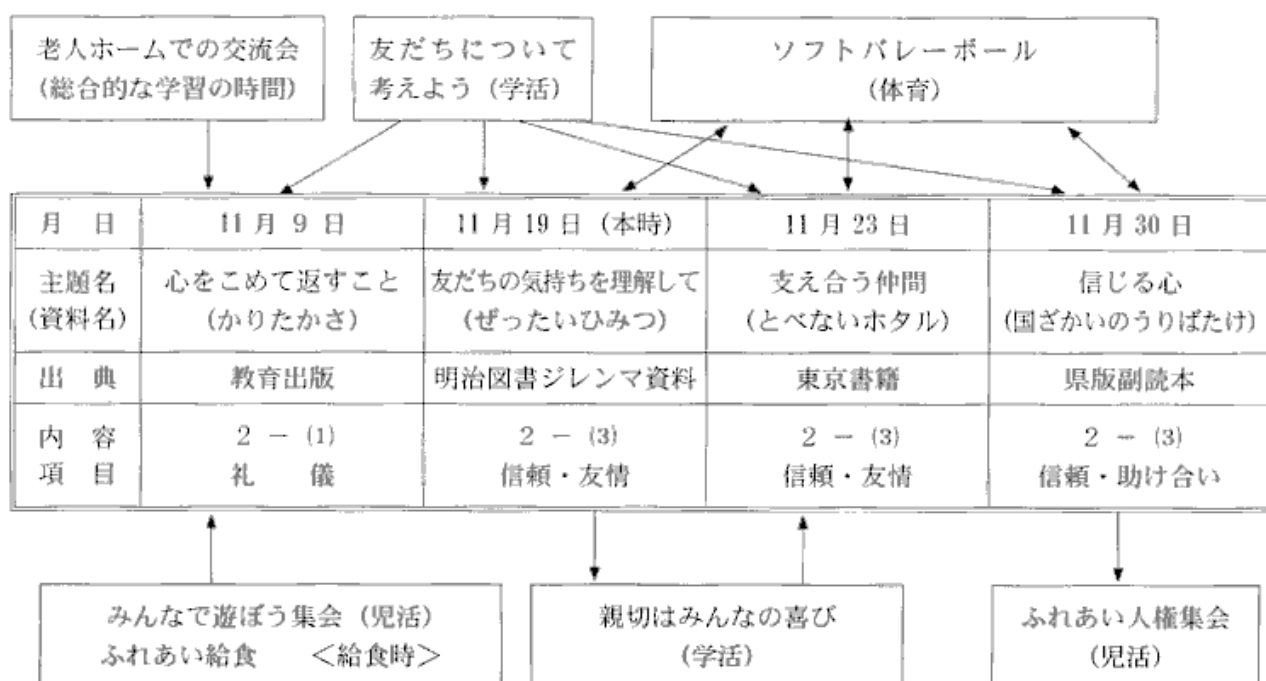
学年当初は、自分のことだけをするのに精一杯の子どもたちであったが、委員会活動や代表委員会、集会活動等を通して、集団をよりよくしていくために自分はどう行動したらよいかという視点で、物事を見つめられるようになりつつある。また、1学期の総合単元「自分にできることを」の学習後に、「誰かがしてくれる」ではなく「自分がしよう」というふうを考え、実際に行動している姿も見られるようになってきた。

そこで、クラス替えを終えてある程度人間関係が固定してきたこの時期に、改めて学級集団の中の友達関係に目を向けさせたいと考え、総合単元「友情を深めて」を設定した。

毎年2学期に行われている「みんなで遊ぼう集会」「老人ホームでのふれあい交流会」「人権集会」では、自己本位な欲求を抑え、相手の意見を受け入れながら、一人一人が力を出し合って協力することの大切さを学ぶことができる。これらの体験を道徳の時間と関連させながら、一連の学習を通して今までの自分の友達に対する接し方を見つめさせ、本当の友達とは何かということについて考えさせたい。そして、自己本位なつきあい方を脱し、相手のことを思いやり、ともに向上できる友達関係を築いていくことができるよう、支援していきたい。

## (2) 単元の構想

「友情」に関する本の読み聞かせ <朝の活動>



## 5 本時の学習

(1) 主 題 名 友だちの気持ちを理解して

(2) 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

2 - (3)	お互いに信頼し、友情を大切にしながら助け合っていこうとする心情を育てる。
---------	--------------------------------------

「友達のため」と思っていたことも、一方的な押しつけになっていることがある。自分が想像する相手の心情と実際の相手の心情との「ずれ」があるときには、そうしたことがよくある。そのことに気づけば、相手の「真の心情」を理解しようとする契機になる。自分の思いと友達の思いの「ずれ」に気づき、友達の思いを大切にしようとする心情を育てることで、豊かな人間関係が築けるよう指導していきたい。

〈児童の実態について〉

本学級の児童は、明るく素直で、人の過ちに対しても総じて寛容である。しかし、友達のことを考えて行動しているつもりでいながら、思慮が足りないことがしばしばあった。また、自分のグループの友達には心配りができて、他のグループの友達のことまで考えて行動できていないことがあった。例えば、一人で遊んでいる友達がいても、気が付いてやさしく声をかけたりさそったりできず、見過ごしていることがあった。また、転校してきた友達に対しても、その立場や気持ちになって考えていない言動があり、心を痛めることがあった。さらに、親しい友達をつくりたいがつかれない児童もいれば、固定した友達のみとつきあって、交友関係を広げようとしないう児童もいる。

交友関係を広げ深めていきたいこの時期に、身近にいる友達の気持ちをよく考えていくことは、認め合い、支え合い、よりよい人間関係をつくっていくうえで大切なことであると考えた。

〈資料について〉 資料名「ぜったいひみつ」(明治図書「モラルジレンマ資料と授業展開 小学校編」)

本資料は、友達の気持ちを考えて、助け合ったり、励まし合ったりすることの大切さに気づかせるためにはよい資料である。のり子に対する好意から発案された「お別れ会」は、のり子を驚かせよう、喜ばせようとの思いで「秘密」にすることになったが、結果は、のり子に寂しい思いをさせることになってしまう。どうすればのり子を悲しませなくてすんだのか、ということ深く考えさせたい。自分がよいと思うことだからきっと相手も喜んでくれるだろうという考えからしたことでも、相手のためにならないことがある。ここでは、役割演技を通して、のり子の心情に気づかせるとともに、本当に相手のことを思うということはどういうことなのかを考えさせ、ねらいに迫らせたい。

〈授業の工夫について〉

① 両者を代わり合って役割演技

よしえとのり子の両者を役割演技することによって、のり子の悲しみに気づかせたい。また、秘密を守るか、うちあけるか、よしえは葛藤するが、相手のことを思っているのはどちらかを考えさせたい。

② 道徳シートの活用

資料が少し長いので、事前に資料を読んで自分の考えを持たせ、道徳シートを書かせておく。また、授業後の自分の考えを書き表し比べることにより、自分の内面の変化を振り返らせたい。授業後の感想は、価値の自覚が深まったか、評価にも活用する。

③ ビデオの視聴

友情について考えさせる事例のビデオを視聴をし、相手の立場を思いやった行動について考え、現実の生活に結びつけていくようにさせたい。

(3) ね ら い

友達の気持ちや立場を理解し、助け合っていこうとする心情を育てる。

(4) 展 開

学 習 活 動	児 童 の 思 い	指 導 上 の 留 意 点
1 自分の大好きな友達を想起し、どんな友達かを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一緒に遊ぶ友達</li> <li>●何でも話せたり相談に乗ってくれたりする友達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●友達の氏名を聞かずになぜ好きなのかを問うようにして資料への導入を図る。</li> </ul>
2 資料「ぜったいひみつ」を読んで、話し合う。 (1) のり子が転校することを知った時のよしえの気持ち (2) 班のみんなに「大丈夫だよ。まかせておいて。」と言った時のよしえの気持ち (3) のり子に話を聞いたよしえの気持ち (役演技) <言う・言わない> (4) よしえはどうしたらよいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>●驚いた。</li> <li>●悲しい。</li> <li>●今のように積極的な自分になれたのはのり子のおかげだ。</li> <li>●秘密を守るように気をつけて、のり子をびっくりさせて喜ばせなくっちゃ。</li> <li>●教えるとみんなに悪い。</li> <li>●怒られるのが怖い。</li> <li>●約束は守らなくてはいけないけどのり子さんがかわいそう。</li> <li>●今、本当のことを告げないと心を傷つけてしまう。</li> <li>●のり子にづらい思いをさせては意味がないから言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●のり子に感謝しているよしえの気持ちや2人が仲良しであることをとらえられるようにする。</li> <li>●喜ばそうとする気持ちから秘密にすることがルールとして決まったこと、よしえも賛同していたことをとらえられるようにする。</li> <li>●グループでした後、全体の前で演じる。</li> <li>●のり子の悲しみに気づくようにする。</li> <li>●秘密にしておく考えものり子を喜ばせたいがためであることをおさえる。</li> </ul>
3 自分たちの生活を振り返り、友だちの気持ちを考えてできたこと、できなかったことを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相手の気持ちや立場をもっと考え、行動していけるようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●友達の気持ちを考えてできなかったことは、次はどうすればよいかを考えさせたい。</li> </ul>
4 ビデオ視聴し、学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●友達の支えや励ましは大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●信頼・友情を深めていこうとする意欲化をはかる。</li> </ul>

(5) 評価の観点

- のり子の悲しみやよしえの悩みに共感できたか。
- のり子やよしえの気持ちや立場を理解できたか。
- 友だちの立場に立って考え、支え合っていこうとする意欲が育っているか。